

特定事業者排出量削減報告書

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市伏見区竹田烏羽殿町6番地									
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	京セラ株式会社 代表取締役社長 久芳 徹夫									
特定事業者の主たる業種	その他の電子部品・デバイス・電子回路製造業									
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者(大規模エネルギー使用事業者(原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者(大規模運送事業者(トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者(その他の温室効果ガスの大規模排出事業者(二酸化炭素に換算して3,000トン以上))									
計画期間	平成20年 4月 ~ 平成23年 3月									
基本方針	全社で1990年度を基準に温室効果ガス排出量を2010年度に6%の削減を行う。									
推進体制	社長を委員長とする「京セラグリーン委員会」を設置し、下部に専門組織である省エネ・温暖化防止部および温暖化防止委員会、省エネ委員会を設置し推進。また環境マネジメントシステムを構築している。									
	環境マネジメントシステム名称	ISO14001								
	適用範囲	国内全拠点								
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	1996年10月								
	年度	設備、対象、工程等	措置内容							
	平成20年度	照明、空調、省エネ	管理体制強化、運用見直しによる省エネルギー実施、照度見直しによる照明器具出力変更((20)管理体制強化の実施)((20)(21)運用見直しによる省エネルギーの実施)((20)照明器具出力変更実施)							
	平成21年度	空調、社有車	室外機への冷媒凝縮促進装置設置、ハイブリッド車の導入((20)(21)ハイブリッド車の導入実施)							
平成22年度	空調	吸収式冷凍機の更新、空調方式の見直し								
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度(実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度(計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度(実績) (21)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)				
	A 事業所等排出区分	4,461.0 t	4,211.5 t	-5.6 %	3,857.7 t	-13.5 %				
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%				
	C その他排出区分	48.9 t	45.3 t	-7.4 %	57.8 t	18.2 %				
	排出合計	4,509.9 t	4,256.8 t	-5.6 %	3,915.5 t	-13.2 %				
	実績に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室効果ガスの排出合計では、運用の見直しやハイブリッド車の導入等により平成19年度に比べ13.2%の削減ができました。</li> <li>今後は活動の継続に加え、高効率機器の導入を検討、実施してまいります。</li> </ul>								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度(実績)	目標年度(計画)	増減率(計画)	報告年度(実績)	増減率(実績)			
	本社	二酸化炭素換算 (延床面積)	74.9 t-CO2/千㎡	71.7 t-CO2/千㎡	-4.3 %	68.1 t-CO2/千㎡	-9.1 %			
	宿泊施設	二酸化炭素換算 (延床面積)	56.9 t-CO2/千㎡	48.6 t-CO2/千㎡	-14.6 %	44.6 t-CO2/千㎡	-21.6 %			
	工場	二酸化炭素換算 (延床面積)	128.8 t-CO2/千㎡	127.1 t-CO2/千㎡	-1.3 %	94.8 t-CO2/千㎡	-26.4 %			
実績に対する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>運用の見直しやハイブリッド車の導入等により原単位は平成19年度に比べ大幅に削減できました。</li> <li>今後は活動の継続に加え、高効率機器の導入を検討、実施してまいります。</li> </ul>									
地球温暖化対策貢献数	対策等の区分	目標年度(計画)				報告年度(実績)				
		取組量等	(二酸化炭素換算)		取組量等	(二酸化炭素換算)				
	森林の保全及び整備	(整備面積)	0.0 ha	(吸収量)	0.0 t	(整備面積)	0.0 ha	(吸収量)	0.0 t	
	市内産の木材の利用	(利用量)	0.0 m <sup>3</sup>	(削減量)	0.0 t	(利用量)	0.0 m <sup>3</sup>	(削減量)	0.0 t	
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	0.0 kwh	(削減量)	0.0 t	(発電量)	0.0 kwh	(削減量)	0.0 t	
	グリーン電力の購入	(購入量)	0.0 kwh	(削減量)	0.0 t	(購入量)	0.0 kwh	(削減量)	0.0 t	
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	0.0 t	(削減量)	0.0 t	(購入量)	0.0 t	(削減量)	0.0 t	
	削減量等合計			0.0 t				1.0 t		
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校を対象に太陽電池に関する環境出前授業を実施しており、今後も継続実施してまいります。</li> <li>環境省、京都市が呼び掛けるライトダウンキャンペーンに参加しており、今後も継続的に参加します。</li> </ul>								
	特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社では、太陽光発電システムの製造など、環境に配慮した多彩な商品を数多く提供しております。</li> <li>本社ビルには、214kWの太陽光発電システム、コージェネレーション設備の導入を行っているなど、省エネビルとして建設されております。</li> <li>平成21年12月に本社公開空地で実施したイルミネーションの電力消費に伴って排出されたCO2を、京都CO2削減バンク(京都環境行動促進協議会)が発行する「カーボンプレジット」でオフセットしました。</li> </ul>								

- 該当する口には、レ印を記入してください。
- 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。
- 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
- 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標(製造品出荷額、延床面積、走行距離等)を記入してください。
- 「地球温暖化対策貢献数」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度(計画)」欄には計画期間中の目標の取組を、「報告年度(実績)」欄には実績の取組を記入してください。
- 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
- 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

